※令和３年度以前入学生用

学校番号	T3010D

令和５年度　インテリア科

教科	工業	科目	インテリア計画	単位数	２単位	年次	３年次
使用教科書	高等学校用「インテリア計画」（実教出版）						
副教材等	超図解で全部わかるインテリアデザイン入門（㈱エクスナレッジ）						

1　担当者からのメッセージ（学習方法等）

日常の身の回りにあるものが、どのようにデザインされ企画立案を経て、制作され、商品化していき、販売され私たちの手元に届くのかを調べ、どのような人々が携わっているのかを考えながら、自分なりにイメージを持って、デザインを生み出していく過程を学習していき、自分自身の技術修得およびに技術向上を目指す。

2　学習の到達目標

実際にインテリア空間を模型で制作していき、イメージしたデザインが実際に立体として出来上がる過程を体験することによって、デザインする上での固定概念をなくし、形にとらわれることなく、人にやさしく快適な環境を考えながら作り上げていくプランニングを履修・習得する。
実際に使われている材料を使用することによって学習の理解を深めていく。

3　学習評価(評価規準と評価方法)

観点	a:関心・意欲・態度	b:思考・判断・表現	c:技能	d:知識・理解
観点の趣旨	参考資料などを、プロジェクターで大きく見せることによって、実際の迫力や寸法概念を見るという学習から始めさせて、デザインをイメージさせやすくする。	色や形、使う人などのターゲットをはっきりさせ、目的にあったデザインをはっきりさせたうえで、しっかりとしたプランを考えさせる。	実際に縮尺の模型を作ることによって、二次元では想像できなかった、利点や改良点などを考えていき、手直しを加えて実際のデザインが分かりやすいように作り上げていく。	最終的に、人前で自分の意見を踏まえながらプレゼンテーションしていくことで、自分で考えたデザインに関しての理解を深め、技術の向上に繋げる。

※令和３年度以前入学生用

評価方法	・カタログをあつめる。 ・デザインの資料となるものを検索ソフトで探し、プラン用紙を作る。	・ラフスケッチを何点か書かせる。	・プランに基づき模型等の制作	・プレゼンテーションをする。 ・意見交換をする ・感想を書かせる ・授業態度
上に示す観点に基づいて、学習のまとまりごとに評価し、学年末に５段階の評定にまとめます。 学習内容に応じて、それぞれの観点を適切に配分し、評価します。				

4　学習の活動

学期	単元名	学習内容	主な評価の観点				単元（題材）の評価規準	評価方法
			a	b	c	d		
一学期	インテリア計画の概念	・インテリア空間について	○	○	○	○	a:資料を見ながら形にしたいものを具体化する b:材質に着目し､それぞれを工夫しながら使用し､快適な空間づくりを理解する c:プランニングしながら実際の配置や同線などを考え理解する d:実際の空間の中で､試行錯誤しながら空間づくりの面白さを理解する	・授業態度 ・ノート提出 ・プリント学習 ・プランプリント
		・照明について		○	○	○		
		・テクスチャーについて	○			○		
		・建具について		○		○		
		・スケール感について	○	○				
		・家具の分類			○	○		
		・配置と銅線	○	○		○		
二学期	インテリアの環境	・インテリアエレメントについて	○	○	○	○	a:空間がどのように構成されているかを映像で学ぶ b:ターゲットやコンセプトを決めプラン用紙に書き込む c:1/10 の模型を作るための材料やスケール感を参考資料で調べ理解を深める d:模型を作ることにより存在感や実際の寸法などの理解ができる	・授業態度 ・ノート提出 ・プランプリント ・模型作品
		・カーテンの種類	○			○		
		・カーペットの種類		○				
		・壁材の有効性		○		○		
		・縮尺模型作り	○	○	○	○		
三学期	各種空間	・室内の種類	○			○	a:日常の空間をもう一度見て触れて材質などを理解する	・授業態度 ・プリント学習 ・PC にて
		・住宅の種類	○	○				
		・空間の計画		○		○		

※令和３年度以前入学生用

		・空間機能のモデル化	○	○	○	○	b:デザインの機能性を理解する。 c:実際使われている塗料を使用して家具作りをするときの予備知識として理解を深める d:プレゼンボードを作成し、デザインの理解を深める	ﾌﾟﾚｾﾞﾝ制作 ・ﾌﾟﾚｾﾞﾝによる発表
		・プレゼンボードづくり	○	○	○	○		

※　表中の観点について　a:関心・意欲・態度　　b:思考・判断・表現
　　c:技能　　d:知識・理解

※　年間指導計画（例）作成上の留意点

・原則として一つの単元（題材）で全ての観点について評価することとなるが、学習内容（小単元）の各項目において特に重点的に評価を行う観点(もしくは重み付けを行う観点)について○を付けている。